

科目名	比較憲法	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群	
			法律学科	□ 必修 ■ 選択
英文表記	Comparative constitution	開講年次	□ 1年 □ 2年 ■ 3年 □ 4年	
			開講期間	■ 前期 □ 後期 □ 通年 □ 集中
ふりがな	さとう ひろとし	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	佐藤 寛稔	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用	
授業のテーマ	近代立憲主義源流となる欧米諸国の憲法に接し、日本の憲法及び憲法学へ影響を理解する。			
到達目標	イギリス・フランス・アメリカ・ドイツの憲法と日本の憲法の異同を説明できる。			
授業概要	イギリス・フランス・アメリカ・ドイツの憲法史、現行憲法の統治機構、人権保障を学びます。特に日本の憲法を学ぶ上で重要なところを重点的に取り扱うので、外国憲法と日本国憲法との異同が明らかになります。そしてそれは日本国憲法の一層の理解につながります。			
授業計画				
第1回	比較憲法学とは			
第2回	イギリス憲法史 マグナカルタ・権利請願・権利章典			
第3回	イギリスの統治機構 議院内閣制と司法制度			
第4回	イギリスの人権保障 憲法典のない国の人権保障制度 ミニテスト①			
第5回	フランス憲法史 フランス革命と近代立憲主義			
第6回	フランス憲法史 「憲法の実験場」の経験			
第7回	フランスの統治機構 半大統領制			
第8回	フランスの裁判制度・違憲審査制度 ミニテスト②			
第9回	アメリカ憲法史 ヴァージニア権利章典・独立宣言書・アメリカ合衆国憲法			
第10回	アメリカの統治機構 例外的に成功した大統領制			
第11回	アメリカの違憲審査制と人権保障 判例法によって確立した違憲審査制 ブラウン判決・バーネット判決などミニテスト③			
第12回	ドイツ憲法史 後発立憲主義国の歴史 プロイセン憲法 ワイマール憲法			
第13回	ドイツ憲法史 ナチスの台頭とワイマール憲法体制の崩壊			
第14回	ドイツ共和国基本法の「闘う民主制」			
第15回	ドイツの憲法裁判所と人権保障 ミニテスト④			
第16回	定期試験			
履修条件	「人権」「統治機構」の単位を修得していること。			
受講のルール	* 憲法の基本的な知識は、知っているという前提で授業を行います。			
テキスト	初宿正典・辻村みよ子『解説 世界憲法集 第5版』（三省堂）			
参考文献・資料	芦部信喜著・高橋和之『憲法（第7版）』（岩波書店） 辻村みよ子『比較憲法（第3版）』（岩波テキストブックス）			
成績評価の方法	期末テスト 60% ミニテスト 40% (10%×4回) ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。			
オフィスアワー	火曜日：9：00～10：30 水曜日：9：00～10：30			
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)			
実務経験及び実務を活かした授業内容				
学生へのメッセージ	欧米の憲法に触れ、日本の憲法をより深く理解しよう。憲法の考え方は、基本的に西欧から輸入されたものです。西欧近代の憲法を学ぶということは日本の憲法の源流を学ぶことであり、「間接的」というよりもむしろ「直接的に」日本の憲法を学ぶ際に役立ちます。			